

ドイツ連邦食料・農業省 農林漁業最新情報
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 8
2019・6・2

1 ブルータング病：制限地域からの仔牛の輸出に係るスペインとの覚書き
(2019・5・30)

ドイツの一部地域（バイエルン州）におけるブルータング病（青舌病）の発生に基づき、広域にわたる制限地域からの牛の貿易は、厳しい制限のもとにおかれている。これは他の EU 一加盟国において主に仔牛の運搬について、関係している。特にドイツ南部バイエルン州の牛飼育経営は、この対策に該当する。連邦農業省は早急に反応し、そしてヨーロッパの各パートナーとの交渉を開始している。今さらにこの病気の発生がみられている。

スペインとの覚書きは、牛の懸念される売却状況に効果的に対応することを協定している。この合意は、制限地域からのワクチン無接種の母豚から生まれた、70 日以内の仔牛の輸出を計画している。これは 6 月 31 日に発効する。

クレックナー大臣：我々はイタリア、オランダの後、スペインとも制限地域からの仔牛販売の明確な基準に合意した。これは牛飼育者の負担軽減にとって、決定的な、そして重要な歩みである。我々は、牛飼育者とその牛に関するブルータング病のもたらすリスクを、非常に深刻に受け止めている。同時に我々は、広範な貿易を制限するという、効率的な危険防護が必要であるという立場である。

2 家畜の福祉に配慮し農業者のための計画一投資の信頼性を創り出す
一母豚の妊娠ストール改善のための規則改正一 (2019・5・28)

母豚の妊娠ストール（個別の檻）飼育の新規則は、豚のためにより多くのスペースをつくりだす。連邦食料・農業省は、明日（5 月 29 日）動物保護一家畜飼育規則改正のために、各州一団体会議を開催する。これについてクレックナー大臣が説明：我々は規則改正草案でもって、畜舎で豚のより多くのスペースと家畜の福祉を創り出す。しかし、同時に我々は肥育豚農家の経済的な負担

もまた、配慮しなければならない。

私は以前から生じている母豚飼育における、豚房の構造上の問題を我々の提案でもって、回避したい。我々は以下の両方を組合わせている。家畜の福祉と競争力の付与について、具体的に提案する。母豚の安定期間の経過後、妊娠ストールの期間と仔豚出産スペースの最小規模を拡大する。同時に我々はこの期間中、今までの妊娠ストールセンターにおける「檻状態」を、さらに役立てるために、そしてこれの転換準備をする上で、経営を可能にする。

この対策は、まさに小規模経営では実行が難しいので、将来的な転換を支援する。我々はこの期間でもって競争力を確保し、そして投資の信頼性を創出する。そのため、母豚飼育者は義務づけられた転換計画を、提出しなければならない。さらなる必要な場合、建築申請書を提出する。我々はドイツにおける生産を維持し、このことに我々の奨励条件を適合させ得る。

背景：

2015年11月24日にザクセン＝アンハルト州の上級行政裁判所（OVG）は、動物保護一家畜飼育規則（TierSchNutzv）の第2第4項 § 24の規定でもって、各々の豚が支障無く立ち上がった後、横たわること、並びに横向きの姿勢で頭と四肢動かし、伸ばすことができなければならないという見解を示した。この見解の後、挙げられた規則の要請は広い妊娠ストールの広さが、少なくとも豚の背峰の高さに適合するか、または両隣の空のストールに支障なく四肢を突き出すという、可能性を豚のために切り開く。

裁判所のこの見解の中にあってドイツ母豚の大部分を飼育する経営は、現在、有効な法的状態にない。ザクセン＝アンハルト州裁判所の見解を基礎に、州の所轄当局による法の短期的な実行は、多くの経営のために著しい負担をもたらし、そしてその履行ができない。今計画している動物保護一家畜飼育規則の改正でもって、母豚飼育者が必要な計画－投資の信頼性を、得ることが目的である。

規則改正草案の基本的な内容：

妊娠ストール

- ・ストール内の母豚の将来的に最大認可の固定期間：現在の約35日からグループ飼育8日に減少。
- ・妊娠ストールに対する将来的な要請
 - －最低限の広さ 豚の背峰の高さ約17%差し引く
 - 3つの大きさクラスについて定義づけられる

ー最低限の長さ これまでの通常 200cm に代わって 220cm

子豚の出産場所

- ・将来的な最大認可固定期間：現在の 35 日から 5 日に減少
- ・子豚の出産スペースは制限なく利用できる床面を最低 5 m²利用でき、母豚が支障なく向きを変えることができること。

移行期間

- ・移行期間は 15 年 母豚経営は 12 年後に義務として転換計画を提出。
必要な場合は建築申請を提出。管轄機関は個別に不公正な厳しさを回避するため、最長でも 2 年で認可すること。

3 フォヒテル政務次官：我々の木材業は革新に依存している

ーハノーバーで木材と林業サミットを開催ー (2019・5・27)

連邦食料・農業省政務次官フォヒテルは、国際木材加工機械見本市 (LIGNA) において”木材と林業サミット”を開催した。この見本市は、ドイツの林業一木材クラスター発展のために、鍵の役割を演じている。ここは、40 年以上前から 2 年周期で国内、国際レベルでの木材の収穫、ロジステイクス システム (総合物流管理システム)、加工技術からリサイクルと木材エネルギーまで、絶え間ない成果を紹介している。

2019 見本市は、森林と木材の価値創造チェーンのあらゆる分野において、ハイライトを提供する。40 ヶ国以上から 1500 余の展示者とともに、13 万 m²の展示面積と 10 万人の来訪者に、今年の特別な状況を PR している。”気象護、環境そして社会のために、林業一木材業のための競争力に不利な結果について、この見本市から生まれる刺激無しに革新は起こらない。

革新と結びついた発展の推進力は、木工業の小規模経営から大きな一群である工業部門まで、競争力の発展と維持のために不可欠である。その際、大きなテーマ「デジタル化」は、林業一木材クラスターにおいても中心的な役割を演ずる。増大するネットワーク化による生産性向上による収益は、コスト指向の産物生産の柔軟化のような刺激でも生ずる。その際、経済的、生態系的そして就業対策上の最適化プロセスが、互いに密接に組み合わせる。

エネルギーそして資源の効率を、コスト低減または労災防止措置のように考慮することは同じである”と、政務次官は述べた。木材について重要な素

の使用分野として、建築分野がさらに成長を経験している。例えば、この間ドイツにおいて1～2戸の家族ハウスの新築に際して、木材建築の割合が20%強となっている。これはさらに倍化する傾向にある。

価値創造チェーン木材の最後にある「木材ゴミ」の回避のみならず、重要なエネルギー上の木材利用は、景気変動の少ないことが証明されている。炭素蓄積者である森林と持続的に生産される木材は、CO₂放出削減のために大きく貢献している。政務次官：”連邦政府は、奨励プログラム再生可能な原料並びに森林気象基金の成果をもって、さらに貢献しそして将来的な刺激をも与える。”

4 クレックナー大臣：将来の畜舎は家畜の福祉に貢献すべき

(2019・5・23)

連邦農業省は、家畜飼育者が経済的そして社会的に受け入れられる新しい畜舎建築構想を提案し、それは社会的な要請に適応したそして農業者が実行可能で、かつ家畜のためになるものである。連邦農業省は、「将来の実際的な豚舎」を強く奨励している。革新的、かつ家畜の福祉を指向した将来の豚舎を、概観できるような科学的な研究を強化している。革新プロジェクトからの開発でもって、農業者は将来的なユニットシステム（訳注・建物などを統一規格品で組み立てる仕組み）によって、母豚、子豚、肥育豚のための近代的な豚舎を設計する。そのために、個々の経営に応じたコストを考慮することができる。

さらにクレックナー大臣：農業者の労働は、社会において常に集中制を伴っており、そして議論されている。畜舎における条件と気象、土壌、水が家畜飼育にどのような影響を与えているか。家畜を飼育する人は、このテーマを繊細に扱っている。なぜならば、我々はドイツにおいて家畜の飼育を、将来もまた成果多く推進したいからである。また、社会の広範な合意を必要とし、そして同時に経済的にも適切に組み立てられるべきである。

ここでは、連邦省一プロジェクト”将来のための仮想畜舎”、設定している。

これは農業者に感動を与える貢献を果たす。この構想について革新的、経済的に支え得ること、そして社会的に受容可能な畜舎が必要である。科学者、市民、農業者そして家畜の専門家、畜舎の建築家でもって、家畜にとってより多くの福祉のために、より多くのスペースと仕事、畜舎のためのより多くの透明性と美的感覚もまた、各々が見える方法で取組み、それぞれの状況に応じて意識を形成する。明らかなこと：将来の畜舎は経営的、地域的な特徴に適合でき

ることである。

クレックナー大臣：このような畜舎と飼育条件の超過コストは、農業者のみに担わせる訳にはいかない。消費者は既に社会的要請に応えるために、レジで支払うために準備しなければならない。公的な家畜の福祉表示によって、生産者のそのような産物の付加価値を、反映させることが可能になる。そのため、私はこの表示の早急な導入に努めている。この規則の草案は、EU 一委員会の「青信号」を得るために作業中である。

背景：

畜舎計画の中心的な成果

- ・母豚、仔豚そして肥育豚のために自由に動けるより多くのスペース
- ・分離した機能的な活動領域
- ・粗飼料の麦藁の敷き藁または他の有機物資材の制限しない供給
- ・肥育豚の土の掘り起こしとシャワーができること
- ・体重 30 kg からの全ての豚の戸外運動場への立ち入り
- ・持続性の社会的要請と美学的観点に適合させるための木材での畜舎建築

”将来の仮想畜舎”には、ゲオログーアグスト ゲッチング大学（コーディネーター、社会的受容れ、経済的考察）、キールのクリスチンアルプレヒトス大学（家畜飼育）、ジュッセルドルフのハインリッヒハイネー大学（マーケティング）、有限会社リチャード ヘルシャー、CO KG（畜舎建築）、ドイツ豚飼育者利益共同体（ISN）が、参画している。

5 政務次官シュトープゲン：園芸に非一化学農薬の使用を（2019・5・28）

ドイツ連邦食料・農業省政務次官ミヒャエル シュトープゲンが、シンポジウム「園芸に非一化学農薬を」開催した。”食料は我々にとって美味しいだけでなく、他の多くの生物にとっても同様である。そのため、我々は伝統的な栽培におけるように、生態系において他の敵対者から守らねばならない”と、彼は述べた。このシンポジウムの開会に際して政務次官が述べた：合法的に導入する化学農薬が安全であっても、多くの人々は他の方法で作物が守られるべきという、望みをもっている。

野菜と果物に対して被害を及ぼす病原体に対して、化学農薬無しにどのように防護するか？ これについて今日（5月28日）科学、経済そして団体から115人の専門家が、連邦省で会合した。ここではまだ全く実践的でないものの、し

かし、将来的に化学農薬を補充し、または交代できる方法が紹介された。一般的に使われている物理学的、生物的な作物保護の方法は、既に被害を及ぼす全ての病原体に投入できないか、または化学的な方法に対して欠点を有している。しかし、昨年栽培作物に関するユリウス キューン研究所においても、新しい方法の進歩が得られた。それは園芸農家においても、新しい作物保護の可能性を切り開くものである。

2019・6・1 訳
青森中央学院大学
中川 一徹